

# 11月 テーマ：人権・福祉 「車椅子から見える世界」



下呂市内デイサービスセンター主任生活相談員の北村祐次さんにお話をさせていただきました。北村さんは、24歳の時に海水浴中の事故で首の骨を折ってしまい、体を動かすことができなくなってしまいました。お医者さんに「ずっと車椅子で生活しなくてははいけません。」と言われた時は、目の前が真っ暗になってしまったそうです。お見舞いに来てくれた人達が「頑張れよ！」とはげましてくれたけれど、「自分はもう一生歩けないんだぞ！勝手なことばかり言わないでくれ！」と心の中では怒っていました。しかし、家族や周りの人の優しさに気づき、その気持ちに応えたいと思うようになり、リハビリをすることを決心しました。厳しい3年間のリハビリを経て、今では日常生活のほとんどを自分の力でできるようになりました。そして、障がいがある自分にできることは何かを考え抜いた結果、『車椅子にふれあう会』を立ち上げ、自分の体験を語る活動を始めました。



北村さんは、自分の努力を自分で評価することで自信が生まれ、それが自分を好きになることにつながるのだと教えてくださいました。他の人の「 でいいな～・・・」ばかり見つけているのではなく、自分のいいところを見つけることが大切だとわかりました。また、自分が目で見えて思ったことと同じことをその人が思っているとは限らない、ということも教わりました。初めて車椅子の北村さんを見て「気のどくだな。かわいそうだな。」と思った人がたくさんいたけれど、北村さんの話を聞くうちに、2人の子のお父さんとして毎日頑張って仕事をし、自分の力で色々なことをしながら楽しく生活していて、北村さん自身はまったくそんなことを思っていないことが伝わってきました。目で判断しないで心で判断する、その大切さを学びました。わかりやすく、笑顔で元気に話してくださったので、最後まで楽しく聞くことができました。

# みんなの感想

じこにあって、車いすのくらしをして、ただのねんざなんかよりひどいけがで、生きていられることは、じぶんの力でいのちをのこしたのだとおもいます。いろいろなちいきの人がささえてくれていることをしりました。

( 1ねん1くみ 男児 )

えんぴつとかを さいしょはできなくてこまるけれど、いっばいれんしゅうして、できるようになったんだね。車いすにずっとのっていても、がんばれるんだね。ぼくもがんばろうとおもいました。

( 1ねん2くみ 男児 )

ぼくが、車いすにのっていて、とてもふじゆうな生活になったら、すごいやだと思いました。北村さんは、「車いすはいやだ。」と思っても、歩けるようにどりょくしたり、シャツをきるれんしゅうをしたりして、いまでは「これがいまの北村です。」と知っているところがすごいと思いました。

( 2年1組 男児 )

わたしは、北村さんの話を聞いて、つらそうだなと思いました。1時間もかけてシャツをきたのすごいいいと思いました。わたしだったら、あきらめていたかもしれません。だけど、北村さんはあきらめずにやっていたので、強いなと思いました。わたしは、何でもすぐにあきらめてしまうので、わたしも強くなりたいと思いました。

( 2年2組 男児 )



北村ゆうじさんは、車いすにのって、気のどくだなあ～、さみしそうだなあ～と思ったけれど、そうではないことを学びました。

いつも車いすをつかっている人を見ると、気のどくだなあと思ってコソコソ言ってしまうので、これからはやめようと思いました。

北村さんの話を聞いて、ぼくたちは、いろいろな人にささえてもらって生きているということが分かりました。

( 3年1組 男児 )

わたしは北村さんの話を聞いて、北村さんは自分でやろうという気持ちがあったから、今は自分で服をきたり、人のしせんを気にしないでいられたりするんだな、と思いました。

はじめに「天じょうばっかはつまらないな。」という話を聞いて、わたしもそんなのいやだなと思いました。でも、北村さんが後のほうで、「自分でやろうという気持ちが出てきました。」と言っていたので、本当にすごいなあと思いました。わたしも、そういうけがをした時は「自分でやろう!」という気持ちをちゃんともちたいです。

( 4年1組 女児 )

お話を聞いて、だれかがしょうがいを持っていても、わる口を言わずにふつうに見守ってほしいと思いました。北村さんの体や手はふつうの人と少しちがうけれど、わたしは、車いすにのっているだけで、あとは同じだと思いました。もしわたしが車いすにのっていたら、みんなにわる口を言われるのはいやだけれど、北村さんみたいになんでもチャレンジしたいです。これから、しょうがいがある人や、こまっている人を見かけたら、すぐに声をかけて助けたいです。

( 4年2組 女児 )

わたしは、車いすから見える世界という話を聞いて、家族が支えてくれるうれしさと、自由に動けることをあらためてうれしいと思いました。

そして、北村祐次さんは、だれも悪くないので、最初はかわいそうと思ったけれど、話を聞いて、見た目だけで決めつけていたので、これからは決めつけないようにしようと思いました。だからそのために、人の気持ちを考えてから話そうと思いました。

( 5年1組 女児 )

わたしは北村さんの話を聞いて、24さいの時から車いすなんてかわいそうだなと思いました。車いすにのっていて、いやだと思えるけれども、わたし達とほとんどかわらず、自分のことは自分でやろうと努力しているのですごいと思いました。

体に不自由がある人が日々努力しているなら、体に不自由がないわたし達は、北村さんよりもがんばらなくてはいけないと思いました。自分ができることは、自分で努力して自分でやりぬこうと思いました。

( 5年2組 女児 )

わたしは北村さんの話を聞いて、はじめの質問で「北村さん気のどくだな〜。」と思っていました。でも、話を聞いていると車いすでも楽しいことがあるんだなと思えてきました。シャツを着られたことを自信に変えて、人前に立ってもいやだなと思わず、自信をもってどうどうとしていた所が一番心に残りました。それから、みんな1人ではなく家族に支えられて生きていることや、みんなちがうからすてきだな、と思うことをどんどん発見していきたいと思いました。わたしは今まで、すてきだなと思ったことがあまりないので、どんどん発見していきたいし、自信をもっているいろいろやりたいなと思いました。

( 6年1組 女児 )

北村さんの話を聞く前は、車いすに乗っている人をじろじろ見てしまったり、かわいそうと思ったりしていました。北村さんは、24才まで普通だったのに、海水浴に行っただけで人生が決まってしまったから、海水浴に行かなければよかったかと思ったと思います。でも、それを乗り越えていたり、シャツを着ることが1時間もかかってしまったけれど、何回も練習して、わたし達とほとんど変わらないようになったことがすごいと思いました。だから、北村さんの話を聞いてからは、車いすに乗っていたり、障がいがあるということだけで特別な人と思わずに、みんな一人一人ちがうということを忘れないで、いじめなどをなくしていきたいです。

( 6年2組 女児 )